異業種コラボレーションでビジネスの幅を広げる

会社を強くする！
実践経営塾

異業種の会社と組んでイベントを開催したり商品を開発したりするコラボレーションは、話題性を高め、新たな発想が生まれるきっかけになると期待されている。よく目につくのは大手企業が行う大々的なコラボだが、中小企業が知名度を上げる手段としても有効だ。ただ資金力が十分でないだけに、相手を見つける工夫や努力が必要だ。今回は異業種コラボに意欲的に取り組む食品メーカーと金属加工会社の活動を紹介する。

株式会社ナンゴー

金属の精密加工技術を活かし、仏具の厨子やコントラバスのメーカーとコラボ。新たな出会いが顧客開拓につながる

着脱できるコントラバスにさらに漆塗りを施した、3社のコラボによる作品

内側が金属で文字が浮き上がる厨子。ナンゴーとNao漆工房のコラボで誕生した

ネックを着脱できるコントラバス。本体とつなぐ部分を、木製（上）から金属製（下）に替えた

企業交流のイベントでコラボ相手と知り合う

京都府宇治市で金属加工業を営む㈱ナンゴーは昨年7月、㈲Nao漆工房（京都市）と共同で「文字が浮き上がる厨子」を製作した。厨子は位牌や仏像などを収める仏具で、木製が一般的だ。その側面をアルミ材に変更し、表面にステレオグラム（注1）加工を施した。扉を開けると空海の「空」の文字が内部に浮かび上がる。

この異業種コラボ企画がスタートしたのは昨年2月で、毎年開催されるものづくり企業の交流イベント「デザインウィーク京都」がきっかけとなった。ナンゴーから参加したプロジェクトグループ室の奥野英子グループ長は「異業種の人と会うと、何かしましょうといつも声をかけています」という。

プロジェクトグループ室の奥野英子グループ長。営業事務を兼任しながら、フットワーク軽く社外にも出かけていくという。「いろんなところで知り合いが増えるので、毎日が本当に楽しい。楽しそうに仕事をしているねと言われるのが一番うれしいです」

「仏具は需要が減り、伝統工芸の漆塗りの後継者も少なくなっているとNao漆工房の小畑直樹社長から聞きました。金属にも漆を塗る技術を開発したということなので、一緒にできることがあると思いました」

ナンゴーは、精密加工で金属の表面に微妙な凹凸を施して画像を浮かび上がらせる「ナンゴー彫り」（注2）という技術を持っている。これと金属に漆を塗るという両社の技を掛け合わせたことで、これまでにない厨子が生まれた。

ナンゴーの異業種コラボ第1号は、宇治市の㈱ヒガシ絃楽器製作所と組んだ「ネックが外せるコントラバス」だ。コントラバスは高さ約180センチから2メートルの大型楽器なので、演奏者は持ち運びに苦労する。奥野グループ長は、コントラバスの本体からネックを外せるようにしたいが接合部の強度が不足するので、木製ではなく金属を使いたいと考えていることを知った。さっそく会社にこの話を持ち帰り、製作部門でさまざまな金属で試して調整を繰り返した末に、接合部の強度が十分で音質も変わらない楽器が2020年9月に完成した。

「私みたいに技術も何も知らない方が、先入観なしで異業種の人と出会えます。うちの会社の人にとっては突拍子もないことばかりですが、そこから思いがけないコラボができてきます」（奥野グループ長）

南郷真代表取締役。都市銀行に17年間勤務した後、義父の経営するナンゴーに入社した。「奥野グループ長が目先の仕事でない話を持ち帰ってくれて、会社の露出度が上がり、地域連携をきっかけとした企業間取引のビジネスの芽が膨らんできています。社員それぞれが持ち味を発揮して動いてもらうことが、結果として本業にいい効果をもたらしています」

新聞やメディアの取材が増え地元の市長も見学に訪れた

ナンゴーの南郷真社長は、2005年に義父から経営を引き継いだ。社員十数名の会社だが自動車メーカーと直接取引をするティアワン（一次請け）の立場だ。しかし08年のリーマンショックで取引が激減した。

「その翌年の正月に当社の協力会社を訪ねると、仕事がないからと毎日畑で白菜を作っていると言われました。かける言葉もなく、仕事が来るのを待つだけでなく自分の力で取ってこなければだめだと真剣に考えました」と南郷社長は振り返る。

この経験から、ネットで集客をする金属加工ソリューションサイト「中途半端net」を11年4月に開設した。試作品や部品を作ってほしいがサイズや数が中途半端で困るというときには声をかけてほしい。そういう思いで名付けたサイトだ。こうしたサービスはそれまでほとんどなかったため、「中途半端net」からの仕事は順調に増えていった。

展示会にも積極的に出展したが、加工品だけを並べても人目を引かない。

「社員の一人がステレオグラムの立体造形をやってみてはとアイデアを出してくれて、展示会で足を止めて見てもらえるようになりました。ナンゴー彫りは当社の技術力の証でもあり、最近は異業種とのコラボ作品も一緒に展示しています。当社は商品を販売する会社ではないので、このコラボ製品が技術力をアピールするきっかけになります」

試作品や少量生産を得意とするナンゴーの工場の製作現場（右）。左写真は、ナンゴーが運営するWebサイト「中途半端net」。他では引き受けないような加工にも幅広く対応する

■会社概要

設立	1973（昭和48）年
代表者	南郷　真
所在地	京都府宇治市白川川上り谷80番地36
資本金	1,000万円
従業員数	15人
事業内容	金属部品・試作品の精密加工、治具・省力化機器の設計製作

異業種コラボを始めてからは新聞やメディアの取材が増えた。昨年10月には宇治市の松村淳子市長も会社見学に訪れた。

文字が浮き上がる厨子はNao漆工房から販売の予定だ。ナンゴーにも、この厨子を見たところから新たな試作の問い合わせが来ている。着脱できる漆塗りのコントラバスも3社共同で製作した。

「これまでなら仏具の世界の話が聞けることはありませんでした。知ることができなかった人と知り合うことで顧客を開拓して市場を創造できるし、新しいアイデアや発見も出てきます」（南郷社長）

ナンゴーがコラボの軸となって新たな展開が始まっている。上場企業や大手からの試作品開発や少量生産の依頼が多いだけに、対応力をさらに高めるためにも南郷社長が異業種コラボに寄せる期待は大きい。

ナンゴー本社内の製品展示コーナーにはナンゴー彫りの見本が展示されている

宇治市のチョコレート店「アトリエ・ルージュ」ともコラボ。ナンゴー彫りでチョコレートからハートが浮き上がるようにした

（注1）ステレオグラムとは、眼の焦点を意図的にずらして眺めることで、単なるパターンに見える模様からまったく別の絵が浮かび上がって見える絵画手法、いわゆるトリックアートのひとつ。

（注2）ナンゴー彫りとは、ステレオグラムを立体造形で表現する技法で、紙などの平面印刷物でのみ可能であったステレオグラムを、本技術によりあらゆる素材に凹凸をつけ再現。イラストや文字などを隠し絵として仕込むことが可能。国内特許取得の上、商標登録済み。